株式会社ウィルズ（東証グロース 4482）

FY2026/3Q　決算説明資料

2026年11月12日(木)

©WILLs Inc.

本資料における留意事項

- ✓ 当社は、2026年1月17日をもって当社連結子会社である株式会社ネットマイルを吸収合併（簡易・略式）したことに伴い、2026年12月期第1四半期より、非連結決算へ移行しております。

  （ご参考）非連結決算への移行並びに2026年12月期個別業績予想及び配当予想に関するお知らせ
  https://global-assets.irdirect.jp/pdf/tdnet/batch/14012026021656313 9.pdf

- ✓ 本資料には、吸収合併後も従前の事業を継続していること、前年同期比較への実質的影響が軽微であること、及びグループ全体の比較を表すことを目的に、連結と単体を比較した前年同四半期比を参考値として記載しております。なお、主な影響は、親子間取引の連結消去分であり、事業実態、及び収益構造に重要な変更はありません。

©WILLs Inc.

エグゼクティブサマリー

売上高・営業利益ともに前年同期比20%超の成長、通期計画を上回る進捗

- 3Q累計売上高は前年同期比120.8%の5,277百万円、営業利益は同122.1%の1,150百万円となり、営業利益率21.8%を確保。
- 3Q計画比では売上高111.0%、営業利益115.5%と、いずれも計画を上回り、堅調な業績進捗を維持。

プレミアム優待倶楽部は、顧客単価上昇により、今四半期も増収を達成

- プレミアム優待倶楽部の売上高は前年同期比126.4%の4,382百万円。既存顧客の取引単価上昇に加え、デジタルギフトの売上拡大が寄与。
- 導入企業数は前期末比6社増の116社。新サービス「デジタル優待倶楽部」や「IR-port」を通じ、さらなる顧客基盤の拡大を推進。

高い収益性と健全な財務基盤を維持、当期純利益には一時的な税効果が寄与

- 子会社吸収合併に伴う特別損益は相殺。IR-navi開発資産の減損153百万円を計上するも、繰越欠損金の活用、及び繰延税金資産の計上により、当期純利益は一時的に高水準。
- 現預金3,531百万円、キャッシュ比率60%超を維持。成長投資・M&Aへの資金余力を確保しつつ、安定的な株主還元を継続。

©WILLs Inc.

ウィルズを取り巻く環境の変化

新上場維持基準、新TOPIX等の東証改革を背景に上場企業のIR活動が活発化

- 東証プライム市場では流通時価総額100億円、東証グロース市場では2030年の時価総額100億円などの新上場維持基準を踏まえ、株価、流動性を意識したIR活動が必要となり、構造的にIR関連サービスの需要が拡大。
- 新TOPIX移行後、パッシブ投資家の売却分の受け皿として、個人投資家向けのIRが注目されている。

新NISA、新政権誕生による株高を背景に、のべ個人株主数が過去最多の9,198万人へ

- AI・半導体株の急騰、円安による輸出企業の業績改善、高市政権誕生、コーポレート・ガバナンス改革への海外評価など複合的な要因から、日経平均株価が史上初の７万円超を記録。
- 個人株主数（延べ人数）は、新NISA導入もあり12年連続で増加し、過去最高の9,198万人。

個人投資家の存在感の高まりを受けて、株主優待制度導入企業数は、1,715社と過去最多

- 新NISA導入や政策保有株式の解消が進む中で、個人投資家の存在感が高まり株主優待制度の新設や拡充を行う企業が増加し、結果、株主優待制度導入企業数は、前期末から56社増加し1,715社となった。

©WILLs Inc.

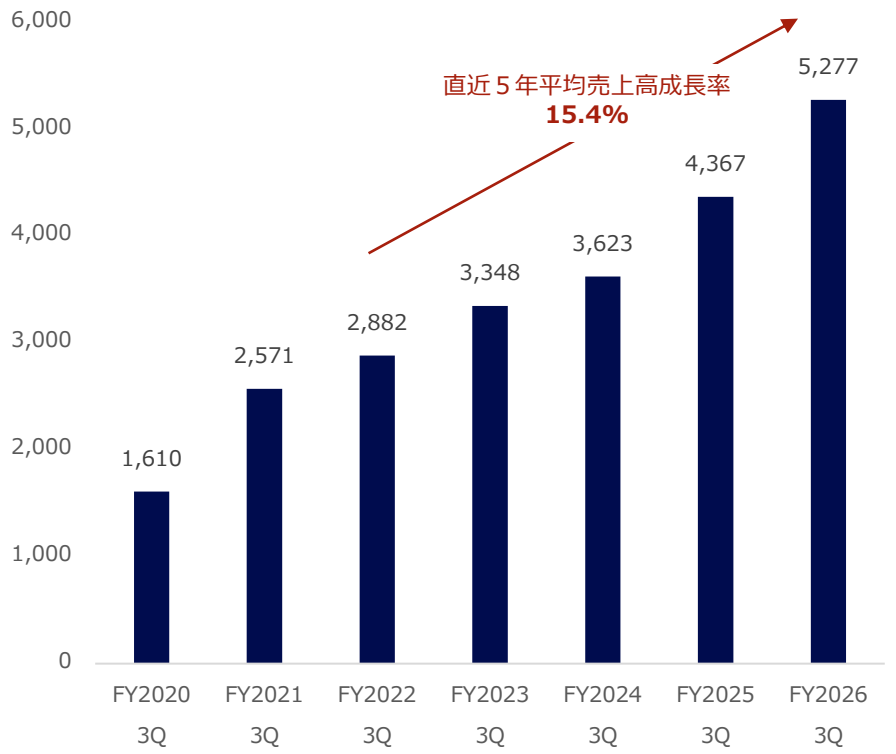
FY2026　3Q業績

©WILLs Inc.

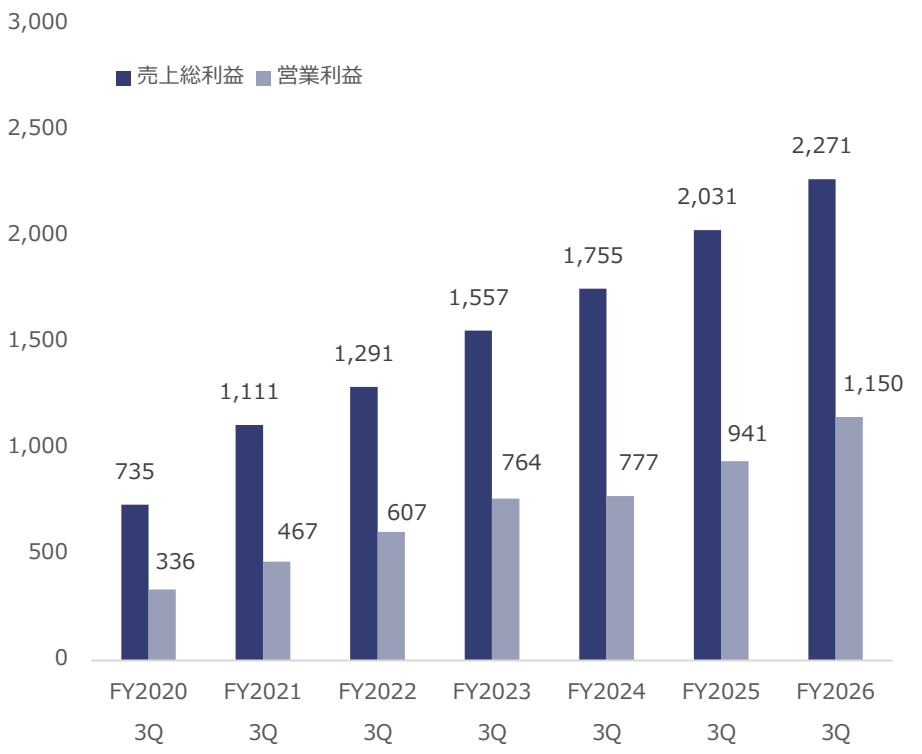
売上高、及び売上総利益・営業利益の推移

- ✓ 売上高は、前年同四半期比120.8%となる5,277百万円となり、直近5年平均売上高成長率は、15.4%。
- ✓ 営業利益は、売上高増加による粗利益拡大が寄与し、前年同期比122.1%となる1,150百万円。

売上高推移



売上総利益・営業利益推移



（注１）2020年12月期第4四半期より株式会社ネットマイルの完全子会社化により連結決算へ、2026年12月期第1四半期より非連結決算へそれぞれ移行しております。

©WILLs Inc.

損益計算書、及びセグメント別売上高

- ✓ **株主管理プラットフォーム事業全体の売上高としては、プレミアム優待倶楽部の伸長もあり、前年同四半期比120.8%。**
- ✓ **前期同様、顧客単価の上昇等によりプレミアム優待倶楽部の売上高は、前年同期比126.4%となった。**
- ✓ **子会社吸収合併に伴う特別損益は相殺。IR-navi減損153百万円を計上するも、繰越欠損金の活用及び繰延税金資産の計上により、当期純利益は一時的に高水準となった。**

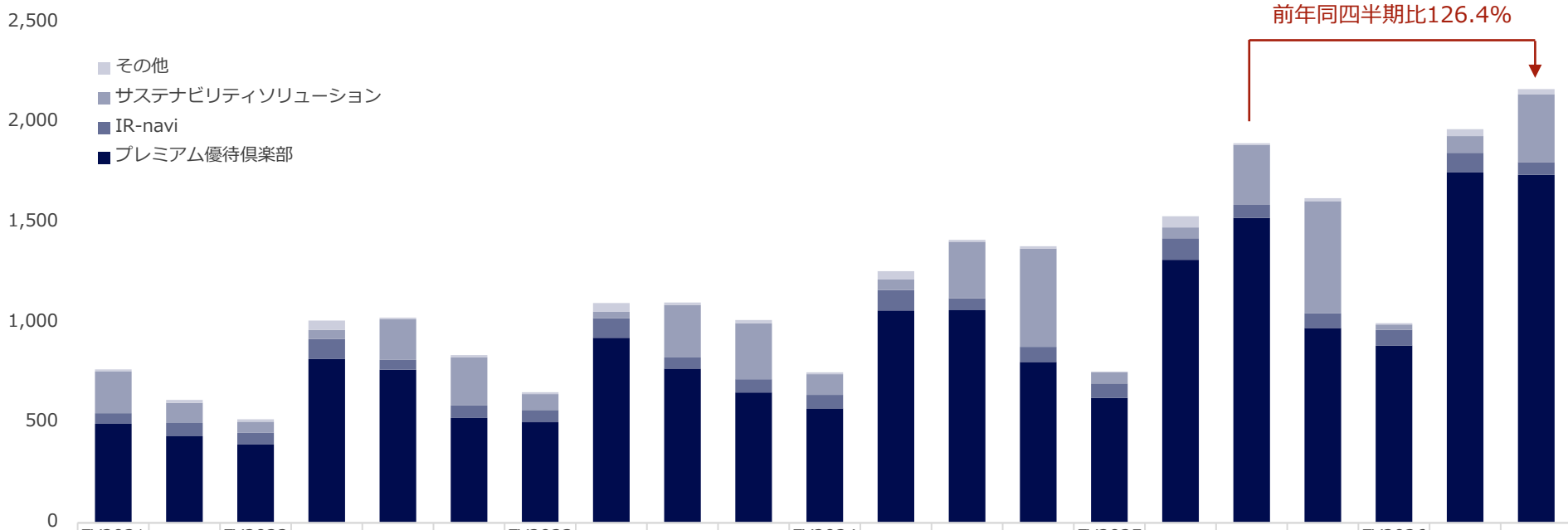
(金額単位：百万円)	FY2025 単体 3Q	FY2025 単体 通期	FY2025 連結 3Q	FY2025 連結 通期	FY2026 単体 計画 3Q	FY2026 単体 計画 通期	FY2026 単体 実績 3Q	計画比	前年同期比
売上高	4,193	5,819	4,367	6,051	4,753	6,750	**5,277**	111.0%	120.8%
売上原価	2,260	3,111	2,335	3214	2,672	3,806	**3,005**	112.5%	128.7%
売上総利益	1,933	2,708	2,031	2836	2,081	2,943	**2,271**	109.1%	111.8%
販管費及び一般管理費	909	1,298	1,089	1534	1,086	1,443	**1,121**	103.2%	102.9%
営業利益	1,023	1,409	941	1302	995	1,500	**1,150**	115.5%	122.1%
（営業利益率）	24.4%	24.2%	21.6%	21.5%	20.9%	22.2%	**21.8%**	-	-
経常利益	1,028	1,415	941	1,301	995	1,500	**1,160**	116.6%	123.3%
当期純利益	703	882	615	839	690	950	**912**	132.1%	148.2%

（金額単位：百万円）	FY2024（連結） 3Q	FY2025（連結） 3Q	FY2026（単体） 3Q	前年同期比 (FY2025.3Q vs.FY2026.3Q) 差額	百分率
売上高	3,623	4,367	**5,277**	909	120.8%
1．株主管理プラットフォーム事業	3,433	4,189	**5,142**	952	122.7%
①プレミアム優待倶楽部	2,699	3,467	**4,382**	915	126.4%
②IR-navi	231	243	**241**	▲ 2	99.2%
③サステナビリティソリューション	441	412	**452**	39	109.6%
④その他	62	66	**66**	▲ 1	99.6%
2．広告事業	197	183	**134**	▲ 48	73.5%
①ポイント及び自社媒体Web広告	91	56	**38**	▲ 18	66.9%
②Web広告代理店及びアドバタイジングゲーム	104	126	**96**	▲ 30	76.5%
③その他	1	0	**0**	0 -	
営業利益	777	941	**1,150**	208	122.1%

©WILLs Inc.

サービス別の売上高推移（四半期）

- ✓ **プレミアム優待倶楽部は、上場維持基準変更や新TOPIX対応等を背景に、1社当たり顧客単価が上昇し、前年同四半期比126.4%。**
- ✓ **サステナビリティソリューションは、統合報告書制作案件が下期へシフトしたため、前年同四半期比109.6%。**
- ✓ **株主管理プラットフォーム事業全体で、前年同四半期比122.7%の増収。**



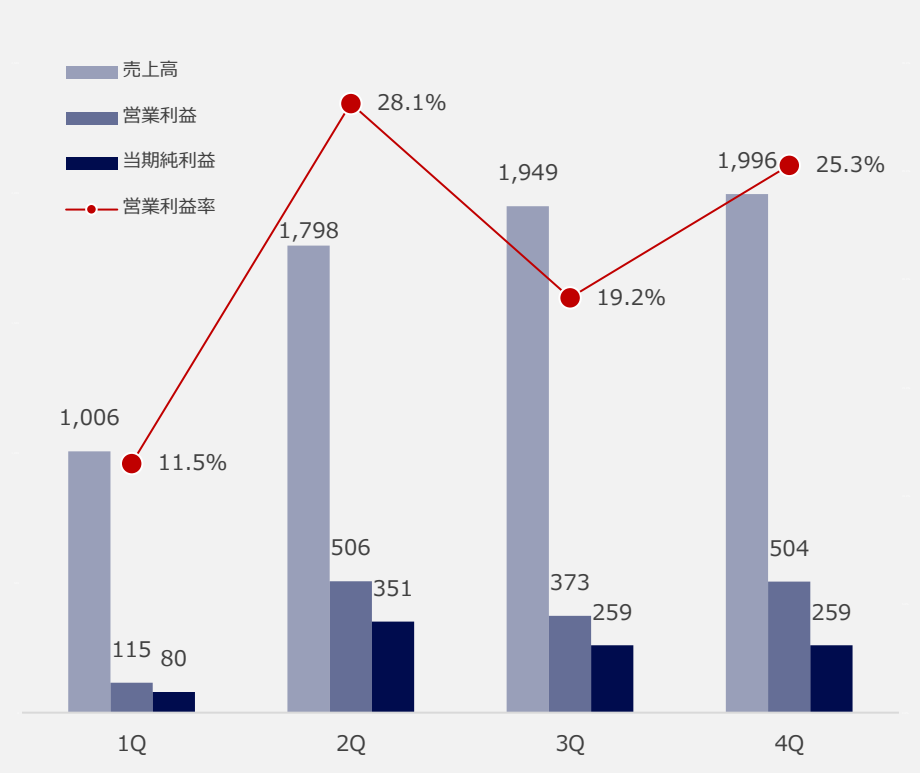
	FY2021 3Q	4Q	FY2022 1Q	2Q	3Q	4Q	FY2023 1Q	2Q	3Q	4Q	FY2024 1Q	2Q	3Q	4Q	FY2025 1Q	2Q	3Q	4Q	FY2026 1Q	2Q	3Q
その他	11	14	12	46	8	10	10	43	12	15	9	41	10	13	4	55	7	15	6	34	25
サステナビリティソリューション	209	102	55	46	203	242	79	32	263	280	104	54	282	490	56	55	301	560	27	84	340
IR-navi	52	66	59	101	50	62	61	99	55	67	68	102	60	76	71	107	65	74	78	98	64
プレミアム優待倶楽部	496	433	392	819	766	525	504	925	772	652	572	1,062	1,064	805	626	1,316	1,525	975	887	1,753	1,740

©WILLs Inc.

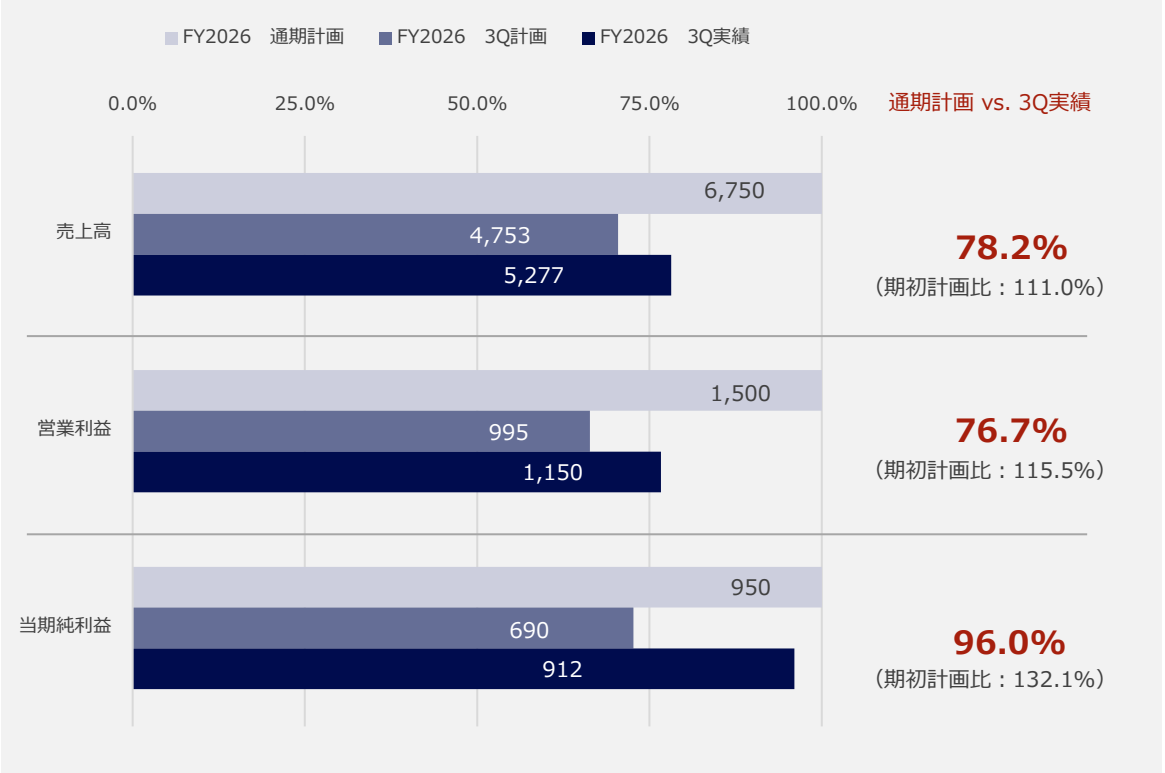
FY2026の業績トレンドと3Q業績の進捗率

- ✓ **3Q売上高は、通期計画に対して78.2%の進捗となり、計画比では111.0%。**
- ✓ **各段階利益は、期初計画を上回る進捗。**
- ✓ **プレミアム優待倶楽部、サステナビリティソリューションを背景に、下期に偏重する業績トレンドは継続。**

■四半期業績のトレンド（FY2026期初予想）



■期初計画に対する業績進捗率

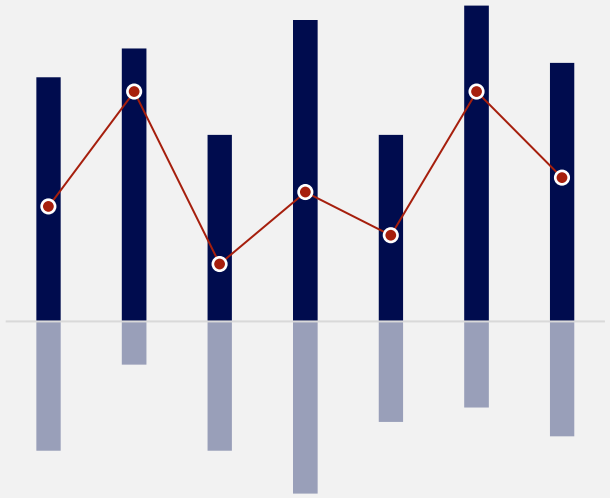


©WILLs Inc.

プレミアム優待倶楽部の導入（廃止）企業数、IR-navi顧客数の推移

✓ **プレミアム優待倶楽部は、2020年以降一貫して導入企業数が廃止企業数を上回り、純増基調を維持。2025年は導入22社・廃止6社で16社純増、2026年も足元で導入18社・廃止8社と10社純増しており、導入拡大ペースは引き続き堅調に推移。**

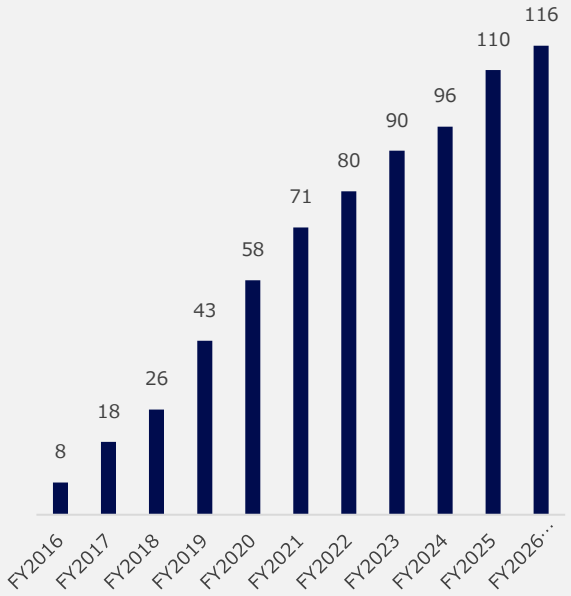
■プレミアム優待倶楽部導入企業数の増減
（開示日ベース【年次】）



	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年
廃止	▲ 9	▲ 3	▲ 9	▲ 12	▲ 7	▲ 6	▲ 8
導入	17	19	13	21	13	22	18
純増減	8	16	4	9	6	16	10

(注) プレミアム優待倶楽部の顧客数は、2026年9月末日。

■プレミアム優待倶楽部導入企業数の推移
（契約日ベース【年次】）



(注) プレミアム優待倶楽部の顧客数は、契約締結済みの顧客数のみカウントしており、新設、廃止を含めた適時開示済みの顧客数とは異なります。
(注) 2026年のプレミアム優待倶楽部導入企業数は、2026年9月末。

■IR-navi導入企業数の推移
（契約日ベース【年次】）



©WILLs Inc.

Global IR-naviへ進化し、発行体・機関投資家双方の実務を高度化

- ✓ **2027年1月、IR-naviを「Global IR-navi」へ進化。**
- ✓ **共通基盤を刷新し、国内外のIR対話と業務生産性を同時に向上。**



グローバル化 × AI対応 × データ基盤の高度化により、
国内の事業会社と、日本株を運用する国内外機関投資家に選ばれる
真のIRサービス／グローバルIRプラットフォームへ

主要アップデート	事業会社向け	機関投資家向け
UI/UXの大規模刷新	✓	✓
英語対応	✓	✓
多言語Web会議ツール刷新	✓	✓
AI議事録・要約機能 オプション	✓	—
ミーティングアレンジ改善	✓	✓
データ拡充（国内外ファンド／担当情報）	✓	—
決算説明会の多言語掲載	—	✓

AIオプション（有償）

- AI議事録・要約機能
- 議事録トレンド可視化

＊2027年春頃追加
- 投資家想定質問の生成
- IRデータ参照チャットボット

発行体にはIR業務の高度化を、機関投資家には情報アクセス・対話機会の拡充を提供

2027年1月より Global IR-navi 販売開始

※リニューアル時期・機能は現時点の予定であり、今後変更となる可能性があります。

©WILLs Inc.

『IR-port』（対話の高度化機能）の導入企業の事例

- ✓ 今下期から提供を開始した『IR-port』では、金融・重工業・総合商社・メディア等の企業に採用された。
- ✓ 複数の業種の企業に採用されたことで、様々な投資家のアクセス状況の蓄積が期待される。

IR-portの対話高度化機能の概要

高度化機能

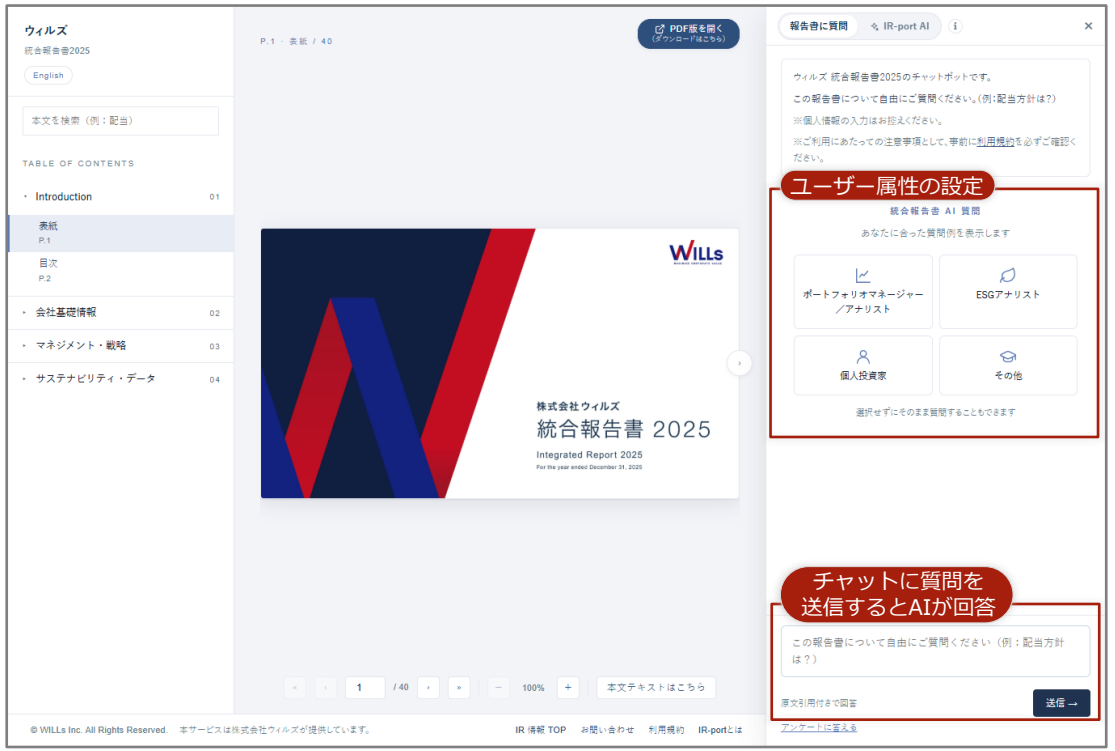
高度化機能 1
インタラクティブ機能
・Q&A 自動生成
・AI チャット対応

高度化機能 2
分析機能
・アクセス分析
・質問分析

高度化機能 3
投資家別レポート生成
・投資家別要約
・関心分析

投資家との対話を高度化

IR-portの画面イメージ



IR-portの導入企業の例

情報・通信
ＴＢＳホールディングス

卸売業
住友商事

保険業
ＭＳ＆ＡＤインシュアランスグループホールディングス

機械
三菱重工業

非鉄金属
古河電気工業

（注）上記実績は2026年11月2日現在

©WILLs Inc.

貸借対照表

- ✓ **契約負債（前受金）は順調に積み上がり、開発投資による無形固定資産は、前期末比132百万円増の1,045百万円**
- ✓ **キャッシュ比率は60%超であり、将来の事業投資、又はM&Aへの待機資金を想定。**

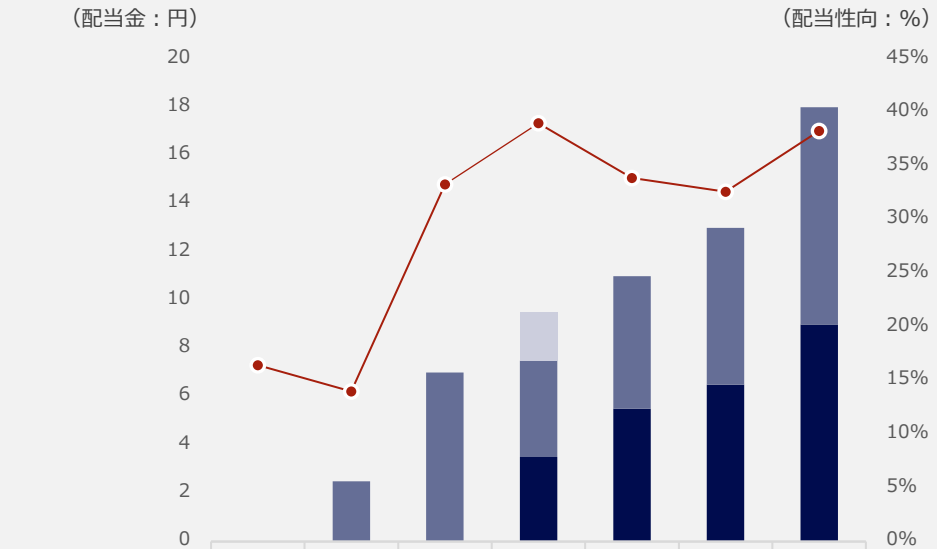
(金額単位：百万円)	FY2025.3Q (連結)	FY2025 (連結)	FY2026.1Q (単体)	FY2026.2Q (単体)	**FY2026.3Q (単体)**	前期末との差額	前年同期比	主な要因
流動資産	3,516	3,646	3,619	4,007	**4,436**	**790**	**121.7%**	
現金及び預金	2,851	3,141	3,163	3,109	**3,531**	**389**	**112.4%**	
受取手形、売掛金及び契約資産	549	436	392	716	**505**	**69**	**115.9%**	四半期売上高の増加に伴う売掛金等の増加
有形固定資産	45	45	43	42	**44**	**0**	**98.2%**	
無形固定資産	869	912	1,054	997	**1,045**	**132**	**114.5%**	ソフトウエア、及びソフトウエア仮勘定の増加
資産合計	4,643	4,822	5,026	5,411	**5,885**	**1,063**	**122.0%**	
流動負債	2,256	2,210	2,290	2,261	**2,507**	**296**	**113.4%**	
買掛金	769	450	491	733	**682**	**231**	**151.5%**	四半期売上高の増加に伴う仕入の増加
短期借入金	0	0	400	0	**0**	**0**	**—**	
１年以内返済長期借入金	9	9	9	0	**0**	**▲ 9**	**—**	
未払法人税等	170	299	37	80	**153**	**▲ 145**	**51.4%**	未払法人税等支払い及び繰越欠損金の活用による減少
契約負債	1,031	1,093	1,088	1,209	**1,360**	**267**	**124.5%**	四半期売上高の増加に伴う前受金の増加
固定負債	17	15	12	2	**2**	**▲ 13**	**14.2%**	
株主資本	2,355	2,578	2,703	3,126	**3,353**	**774**	**130.0%**	
負債・純資産合計	4,643	4,822	5,026	5,411	**5,885**	**1,063**	**122.0%**	

©WILLs Inc.

安定的・継続的な配当とポイント制優待を通じた株主還元の実施

- ✓ **配当は、中間期、期末ともに9円を想定しており、年間配当金は18円へ。**
- ✓ **M&Aや将来の事業拡大の財源として内部留保を充実させつつ、安定的かつ継続的な配当を維持する方針。**
- ✓ **保有株式数と保有年数によって優遇される「プレミアム優待倶楽部」を通じて、総合利回りを意識した還元策を実施。**

■配当実績、及び配当予想



	FY2020	FY2021	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026（予想）
その他配当	0	0	0	2	0	0	0
期末配当	0	2.5	7	4	5.5	6.5	9
中間配当	0	0	0	3.5	5.5	6.5	9
配当性向（%）	16.45%	14.00%	33.30%	39.00%	33.90%	32.61%	38.30%

■ポイント制株主優待制度「ウィルズプレミアム優待倶楽部」

保有株式数	進呈ポイント数	
	初年度	2年目以降
700 株～799 株	6,000 point	6,600 point
800 株～899 株	7,000 point	7,700 point
900 株～999 株	10,000 point	11,000 point
1,000 株～1,999 株	12,000 point	13,200 point
2,000 株～2,999 株	30,000 point	33,000 point
3,000 株～9,999 株	60,000 point	66,000 point
10,000 株～99,999 株	80,000 point	88,000 point
100,000 株以上	100,000 point	110,000 point



©WILLs Inc.

WILLS
MAXIMIZE CORPORATE VALUE

ともに、未来をつくる。

ウィルズのこれからを、皆様とともに。

株主懇談会
開催のお知らせ



代表取締役社長 CEO
杉本 光生

当社代表取締役社長 CEO が、株主の皆様と直接お話しする
「株主懇談会」を開催いたします。
当社の事業や成長戦略についてご説明するとともに、
皆様からのご意見・ご質問を伺う機会です。

- 社長から直接 事業・成長戦略をご説明
- 少人数での 対話の場
- レストランでの お食事付き （全2回）
- 当社オフィスでの 懇談会 （軽食付き）

開催予定時期

2027年 9月	2027年 12月	2028年 3月
レストランでの 食事付き	レストランでの 食事付き	当社オフィスでの 軽食付き

対象者

2026年12月31日時点および2027年6月30日時点のいずれの時点においても、
当社株主名簿に記載または記録され、かつ「ウィルズプレミアム優待倶楽部」に登録された株主の皆様

株主の皆様との対話を通じて、持続的な企業価値の向上を目指してまいります。

補足資料

©WILLs Inc.

会社概要

商　　号	株式会社ウィルズ　（英名：WILLs Inc.）
設　立　日	2004年10月18日
上場市場 証券コード	東証グロース・4482　（上場日：2019年12月17日）
本社所在地	〒105-0001　東京都港区虎ノ門2－3－17 虎ノ門2丁目タワー6階
代　表　者	代表取締役社長CEO　杉本 光生
資　本　金	246,900千円　（2025年12月31日現在）
従業員数	138名　（役員、非正規雇用者を含む連結従業員等数　2025年12月31日現在）
事業内容	●株主管理プラットフォーム事業 ・プレミアム優待倶楽部、及びプレミアム優待倶楽部PORTAL（https://portal.premium-yutaiclub.jp/）の運営 ・デジタル優待倶楽部の運営 ・IR-naviの運営 ・サステナビリティソリューション（統合報告書・アニュアルレポート等の企画・制作） ・バーチャル株主総会、オンライン決算説明会 ●広告事業 ・自社媒体Web広告 ・Web広告代理店及びアドバタイジングゲーム

©WILLs Inc.

代表者紹介



杉本 光生

代表取締役社長CEO

経歴

1991年　4月　株式会社リクルートコスモス（現 株式会社コスモスイニシア）入社
1992年　7月　株式会社インテリジェンス（現 パーソルキャリア株式会社）入社
1993年　4月　株式会社アイ・アールジャパン入社
1997年　4月　株式会社ストラテジック・アイアール入社
1999年10月　ジー・アイアールコーポレーション株式会社 取締役就任
2001年　4月　同社専務取締役就任
2004年10月　当社設立
　　代表取締役社長CEO就任（現任）

代表者略歴

株式会社リクルートコスモス、株式会社インテリジェンスでの営業経験を経て、株式会社アイ・アールジャパンに入社。その後、株式会社ストラテジック・アイアールの経営に参画し、2001年の合併による新会社ジー・アイアール・コーポレーション株式会社の取締役に就任。2004年10月に当社を設立し、代表取締役社長CEOに就任。15年に及ぶIRコンサルティングの経験を活かし、効率的なIR活動の実現を目指してIRナビゲーションシステム（現在の「IR-navi」）を考案・プロデュース。一方、個人投資家と機関投資家との間にある投資情報格差を是正すべく、個人投資家向け株主優待サイト「プレミアム優待倶楽部」を考案し、国内上場企業に対して戦略的個人投資家向けIRを提唱。日本IR協議会メンバー。

主な著書

- 「インターネットIR戦略入門」（共著／東洋経済）
- 「新規公開・上場のためのIRコミュニケーション戦略マニュアル」（共著／中央経済社）
- 「貧血日本」（ダイヤモンド・ビジネス企画）

©WILLs Inc.

事業概要

	サービス	内容・特徴	提供先	ユーザー
株主管理プラットフォーム事業	プレミアム優待倶楽部	●株主優待商品交換サイト ●株主ポートフォリオの最適化 ●オンラインでの株主とのコミュニケーション ●法定書類の電子化／電子議決権行使	上場企業	上場企業株主
	プレミアム優待倶楽部 P O R T A L	●各社の株主優待ポイントを「WILLsCoin」で合算 ●株主以外も利用可能な株主優待商品交換サイト ●6,000種類超の株主優待商品 ●株主優待情報の取得	上場企業の株主 一般消費者	
	I R - n a v i	●100,000名以上の国内外ファンドマネージャー・アナリスト情報 ●機関投資家の株式保有状況・投資スタイルの分析 ●メール配信、IR活動履歴の管理 ●電子議決権の管理	上場企業	
	サステナビリティ ソリューション	●SDGs、統合報告書・アニュアルレポート、CSRレポート等の制作、及びチャネル・手法の提案 ●日本精工の案件でWICIジャパン統合リポート・アウォード2023 Silver受賞、日立製作所の案件で日経統合報告アウォード2022 グランプリG賞受賞をはじめ、支援実績多数		
	バーチャル株主総会 オンライン決算説明会	●世界有数規模の動画配信プラットフォームを活用した安定したライブ配信システム ●ブロックチェーン技術を活用したデータの改ざんが不可能な電子議決権行使プラットフォーム、及び集計システム		
広告事業	自社媒体 W e b 広告	●自社広告媒体「すぐたま」におけるWeb広告配信を行うサービス	上場企業 未上場企業	
	Web広告代理店及び アドバタイジングゲーム	●自社媒体Web広告で蓄積したWebマーケティング・Web広告ノウハウを活かした顧客のWeb広告活動のサポート ●顧客のWebサイトにゲームソリューションを導入し、導入先のWeb広告売上の向上とロイヤリティ向上を行う。		

©WILLs Inc.

ウィルズの価値創造プロセス

外部環境

滞留した個人金融資産
- 家計金融資産の約1,200兆円が預貯金として滞留しており、日本株式市場の時価総額と同規模の資金が活用されていない。
- 政府方針『貯蓄から投資(資産形成へ)』の進展が急務。

中小型銘柄のIR不足
- カバレッジ対象外の銘柄情報が不足していることに加え、株式流動性の観点から機関投資家が中小型銘柄に投資ができない。
- 海外機関投資家向けに整備されたIR情報が不足。

アクティビストの台頭
- 株式持ち合いの解消による安定株主層の喪失により、アクティビストが台頭。
- 資本効率性の低さも相まって、株主提案数も増加。

上場維持基準の厳格化
- プライム市場においては、流通時価総額100億円、グロース市場においては時価総額100億円の基準を設置。
- 基準達成に向けたIRの注力が必要

経営資源

財務資本
株主資本、資金力を生かした機動的なM&A戦略の実行

製造資本
株主管理プラットフォームによる株主優待、IR発信・議決権回収のデジタル化と統合報告書制作力

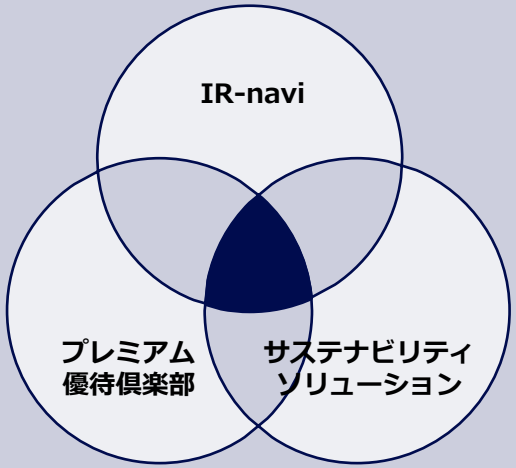
知的資本
IR活動の最適化を支える株主管理プラットフォームやノウハウ、蓄積データによる分析力

人的資本
IR／SRの専門性と広範な投資家ネットワーク、分析・営業力を持つ人材

社会・関係資本
株主優待や議決権行使プラットフォームを利用する投資家との関係
ふるさと納税サービスによる地方創生

自然資本
IR／SR領域でのサステナビリティ開示支援を通じて、顧客企業の持続可能性戦略を支える

ビジネスモデル



資本市場における企業価値向上プロセスを統合し、資本政策・株主戦略を司る強固なモデル。

個人株主属性・行動分析、機関投資家の売買動向、面談履歴、サステナビリティ評価、それらすべてを掌握できる唯一無二のモデル。

経済的価値の創出

2025年度／実績

・時価総額　　：150億円
・売上高　　：60億円
・当期純利益　：10億円
・株価収益倍率：18倍

▼

2030年度／目標

・売上高　　：100億円

社会的価値の創出

1．投資の活性化による株式市場の拡大

2．投資家間の情報格差の是正

3．株主のエンゲージメント強化

4．サステナビリティ経営の健全的発展

©WILLs Inc.

サービス紹介：プレミアム優待倶楽部

戦略的な株主優待ポイント設計によって個人株主ポートフォリオの最適化を実現



株主優待のポイント化によるメリット

- 戦略的なポイント設計による株主構成の最適化
- ポイント繰越制度による長期保有株主の創出
- 全国から集めた優待商品と交換可能
- 電子議決権行使等に対するアクションポイントの付与

株主電子化による、株主とのコミュニケーションの促進

- 株主プロフィール情報の把握
- 取得した株主のメールアドレスに向けたメール配信
- 株主へのアンケート機能
- 株主による電子議決権行使機能（WILLsVote）

©WILLs Inc.

サービス紹介：デジタル優待倶楽部

成長企業向け『デジタル優待倶楽部』をリリース
スマホ一つで完結するサービスを提供、株主優待を次世代にアップデート

選べる楽しさ

個人投資家に人気な幅広い株主優待ラインナップ

電子マネー・ポイント優待

amazon / PayPay / QUO Pay クオ・カード ペイ / Edy / dPOINT / POINT / nanaco ナナコ / WAON POINT

厳選物品・体験優待



※写真はイメージです



WILLsCoin

他社プレミアム優待倶楽部の優待ポイントとの合算や
ふるさと納税の寄付に充当が可能です。

圧倒的な低コスト

シンプル&明瞭な料金体系

圧倒的な低コストで電子マネー・ポイント優待を導入可能

業界最安値水準

選べる料金プラン

※料金詳細についてはお問い合わせください

支払い対象は【行使された分】のみ

支払い時期は【行使された後】の後払い

使われなかったポイント分の費用は一切発生いたしません

運用の効率化

企業側で自由に設計できる運用DX。



- 企業側でロゴやメッセージを自由に設定可能。
- エクセル管理から、セキュアなデジタルデータベースへ。
- 面倒な要件定義や開発期間は不要。申し込みから短期間で導入可能。

- ✓ 費用は株主様が行使したポイント費用と手数料のみという従量課金モデルを実現。
- ✓ 従来の手数料を劇的に圧縮し、持続可能な株主還元に貢献。
- ✓ デジタルが不慣れな株主様も置き去りにしない、電話交換サービスも提供。

Web完結（スマホ・PC）



若年層・現役世代：QR読み取りから数タップで完了。アプリ不要。

Digital デジタル優待倶楽部

電話対応（IVR/自動音声）



シニア層：スマホ操作に不安のある株主様向けに。電話による交換受付体制を設備。

©WILLs Inc.

サービス紹介：IR-navi

- ✓ **機関投資家のプロフィール情報等を通じて、潜在機関投資家へ効率的なアプローチの他、**
- ✓ **プレミアム優待倶楽部と併用することで議決権行使結果の管理が可能**



顧客数
370社

投資家プロフィール

- 国内運用機関　259機関
- 国内証券会社　74社
- 海外機関投資家　約9,000社

投資家データベース

- 国内アナリスト・ファンドマネージャー　約4,000名
- 海外ファンドマネージャー　約100,000名

投資家保有状況閲覧

- 国内機関投資家の保有株式数の把握
- 海外機関投資家の保有株式数の把握
- 大量保有状況のアラート機能
- 地域・エリア別の運用総額ランキング情報

投資家ターゲティング

- 国内外機関投資家の保有株式数の推移
- 同業他社比較機能
- 機関投資家別日本株運用資産の状況
- 投資スタイル別ファンド検索機能（Growth、Value、GARP、中小型等）

IRイベント管理

- IRカレンダー機能（決算説明会、IR-meeting、個別取材対応等の管理機能）
- 投資家プロフィール検索（ファンドマネージャー、アナリストの連絡先、メールアドレス等）
- 一斉メール配信機能
- 投資家面談履歴の管理機能

株主管理

- 株主の電子名簿管理機能（住所、電話、eメールアドレス、年収、運用資産額、職業等）
- 株主向けアンケート機能
- 株主ポストへの法定書類及び議決権行使書の配信機能

©WILLs Inc.

サービス紹介：サステナビリティソリューション

- ✓ **ESGコミュニケーションやサステナビリティ開示サービスを通じて、株主・投資家をはじめとしたステークホルダーへの情報発信や対話促進を支援するサービス。具体的には、統合報告書などのコミュニケーションツールの制作に長ける。**

<一例>



©WILLs Inc.

統合報告書 AI自動生成サービス『IR-port』の提供開始

背景/目的

- 膨大な作業負担を生んでいる統合報告書制作。多くの中小型企業においては、制作予算やリソースの不足から、発行を見送る企業も多い。AIアシストによるコンテンツ制作は、現行のビジネスの労働生産性の向上するだけでなく、最もニーズがあり、当社が取りこぼしていた中小型市場を獲得するプロジェクトである。

- 2026年度 第3クオーターからの受注を見込み、将来、AIの技術がさらに進展すれば完全に近い自動生成も見込めるため、ビジネスモデルをSaaS型へ転換することも視野に入れる。

アウトプット

① **統合報告書**
② **スポンサードリサーチ**
③ **有価証券報告書 サステナビリティ情報記載**（2023.1より義務化）

機能

① **英文翻訳**（実装済）
② **コンテンツ制作支援**（実装済）
③ **デザインアウトプット**（2026.3リリース）

価格設定

	体制	平均予算
統合フルパッケージ	・当社ディレクター（3~4名）によるマニュアル制作	2,000万円~3,000万円
AI アシスト制作	**・AIアシストによるコンテンツ制作** **・当社ディレクター（1~2名）**	**700万円**



©WILLs Inc.

ウィルズを取り巻く環境について

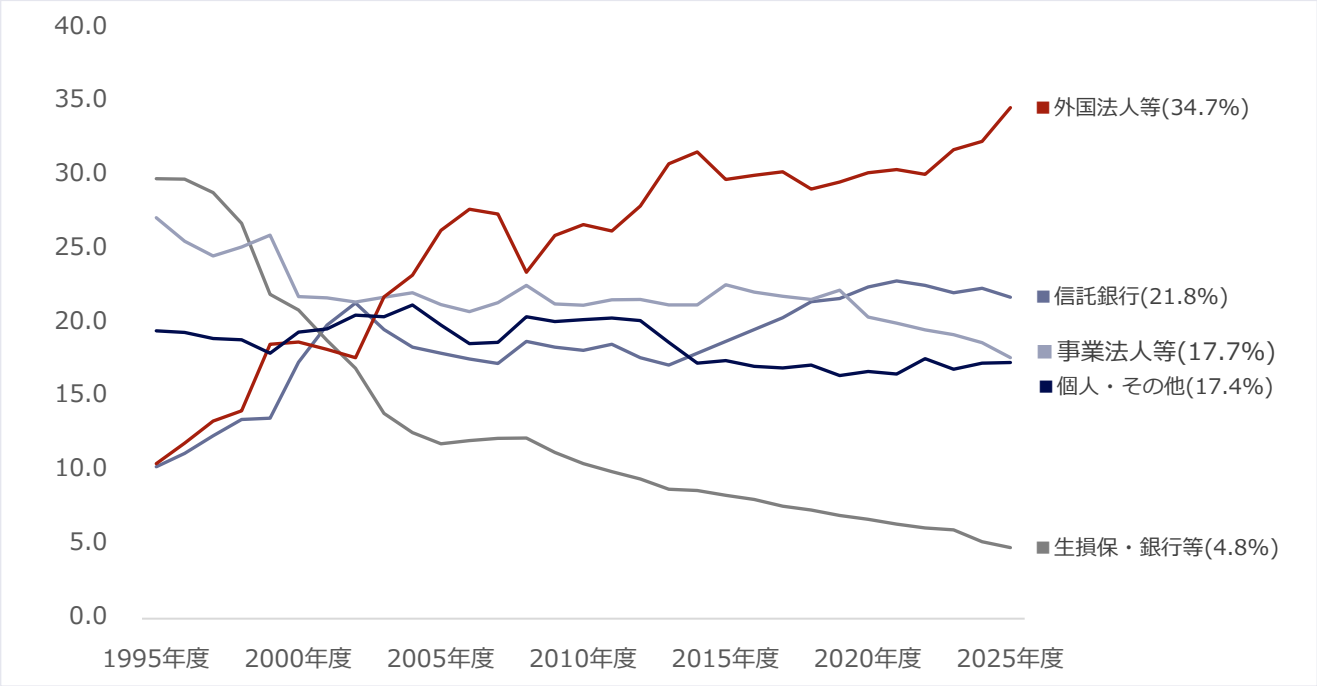
©WILLs Inc.

市場環境（投資主体別の株式分布状況）

✓ **バブル崩壊による持合解消、東証改革による企業価値、ガバナンス改革、円安進行と、企業の収益力改善による株高を背景に海外機関投資家の保有割合が増加してきた。**

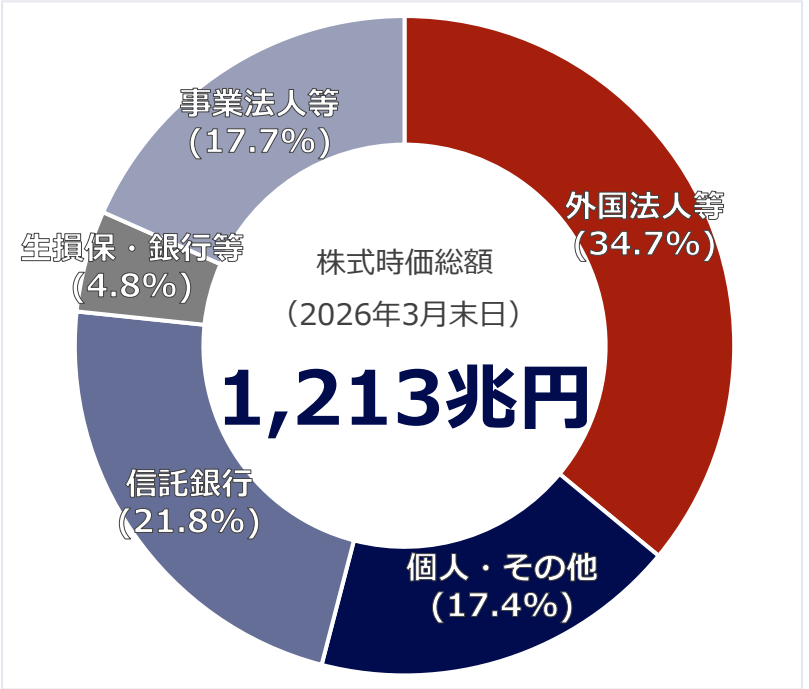
投資部門別株式保有比率の推移(2026年3月末)

- バブル崩壊を経て持合株売却が進み、物言わぬ株主の比率が低下
- 外国人投資家の保有比率の上昇・生損保の保有比率の減少が顕著



投資部門別株式保有割合(2026年3月末)

- 事業法人・金融機関の保有比率は減少傾向
- 持合解消の受け皿として個人投資家に期待



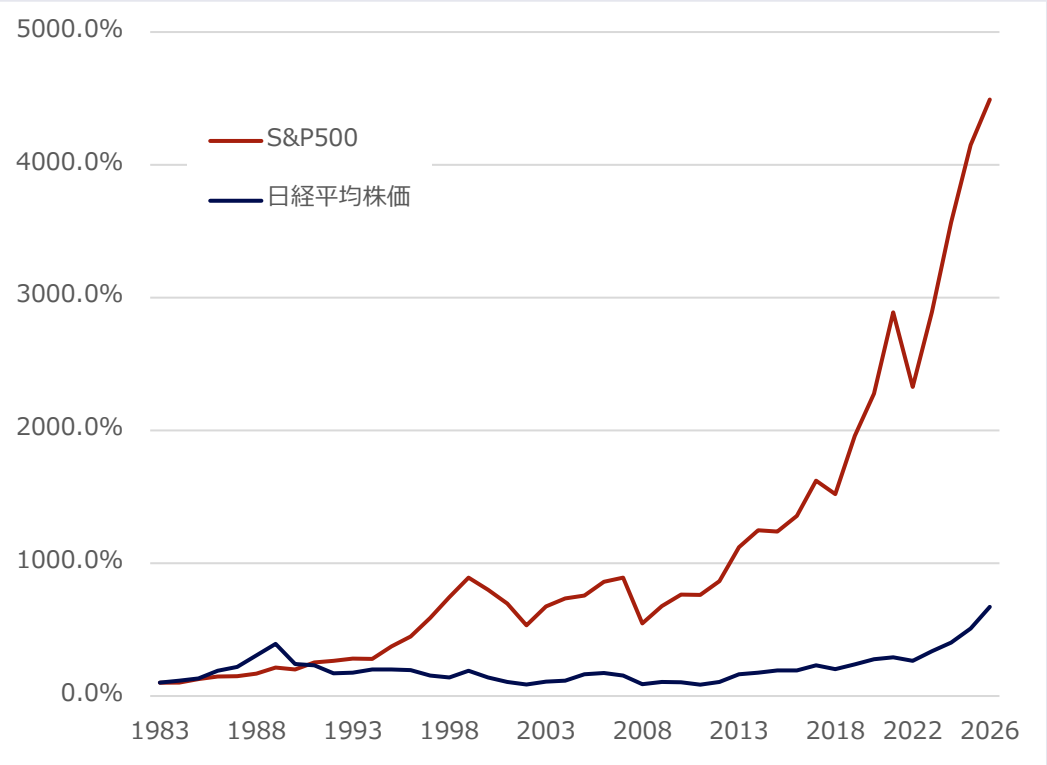
(出所)東京証券取引所 2025年度株式分布状況調査「投資部門別株式保有比率の推移」より当社作成。

©WILLs Inc.

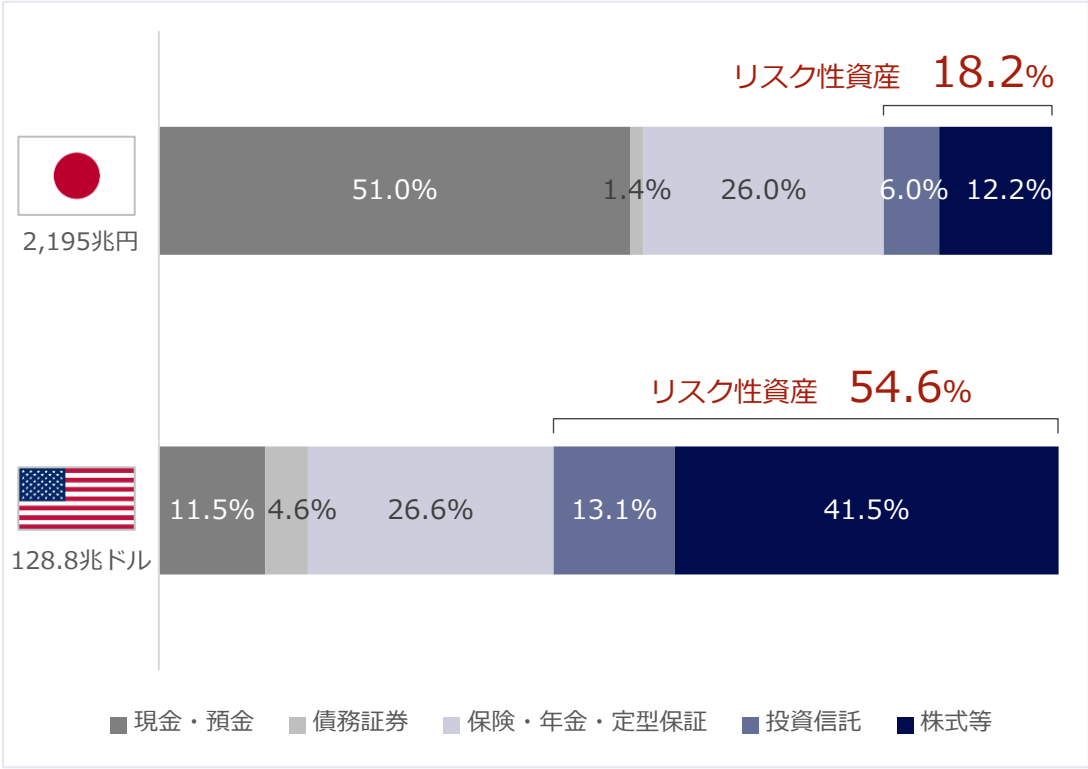
市場環境（日米の主要指数の成長率と家計の金融資産構成）

- ✓ **過去40年間で45倍の成長をみせるS&P500に対し、日経平均株価の成長率は7倍と依然として大きな差がある状態。**
- ✓ **日本の家計の金融資産における「リスク性資産」の割合は、米国の54.6%に対し18.2%と小さく、株式市場に十二分にリスクマネーが供給されているとはいいがたい。**

■日米主要指数の成長率



■家計の金融資産構成の日米比較

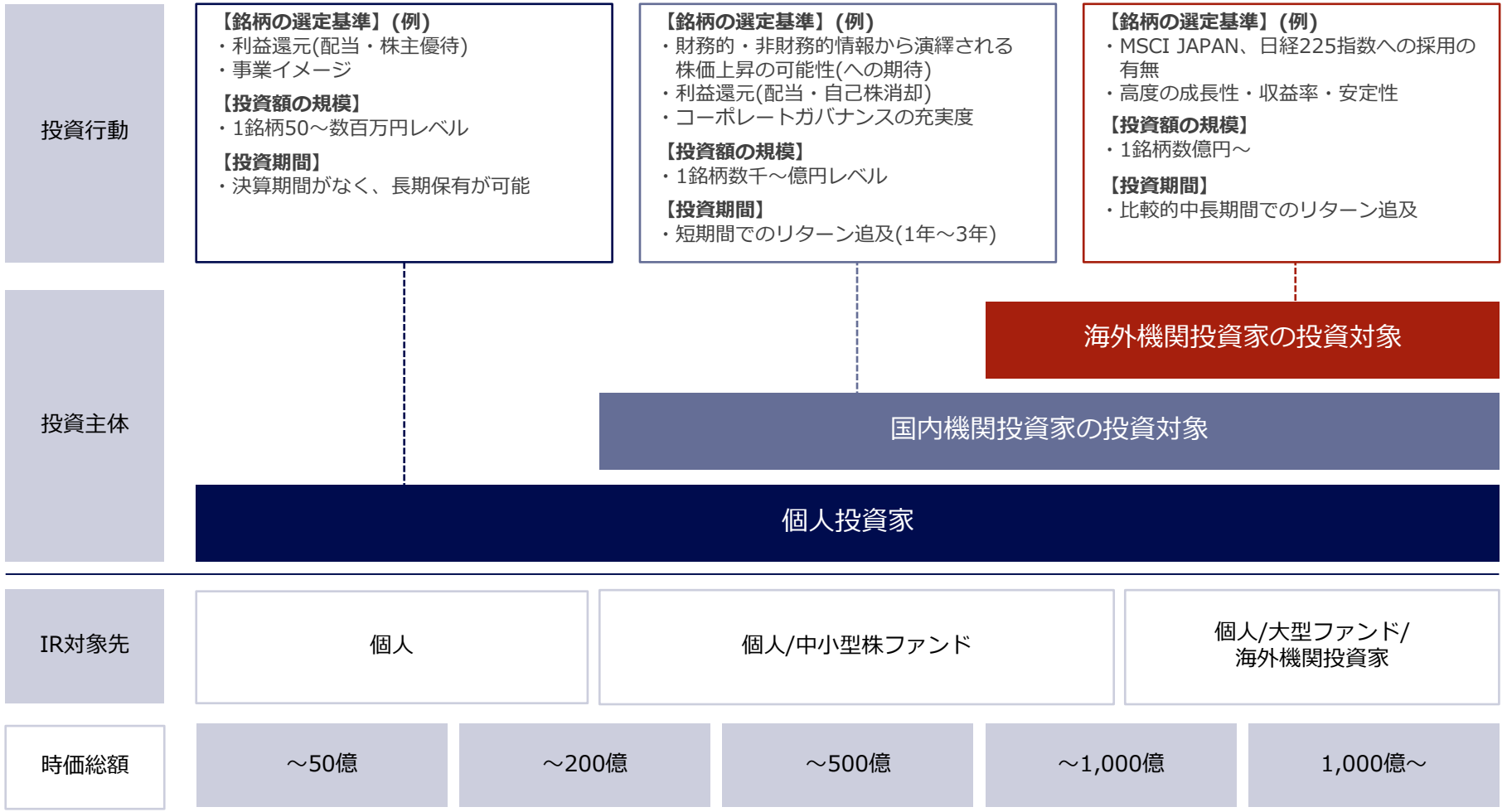


(注１) 終値ベース。1983年の各指数を100として変化率を算出
(注２)日本銀行調査統計局「資金循環の日米欧比較（家計の金融資産構成）」2025年8月29日より当社作成。「その他」項目をの除く。
(出所)Quick Astra Managerより、当社作成。

©WILLs Inc.

市場環境（企業規模に応じたIR戦略の必要性）

- ✓ **流動性が低い企業（日々の売買代金が少ないなど）の場合は、投資基準等の制約により、機関投資家からの組み入れが期待しにくい。**
- ✓ **機関投資家からの投資を受けるためには、一定水準までは個人投資家による流動性供給が必要。**



©WILLs Inc.

日本の資本市場改革が当社の成長機会を拡大、IRが高度化し恒常的な成長ドライバーへ

✓ 資本市場改革を背景に、上場企業には投資家との対話、情報開示の高度化が一段と求められており、こうした構造的需要が、当社の成長機会の拡大を後押しするだけではなく、IR・株主管理が高度化し、継続的なソリューションの需要に繋がっている。

資本市場改革の進展が当社ソリューションへの構造的需要を拡大

①東証の市場改革

- ✓ PBR1倍割れの改善要請
- ✓ 資本コストや株価を意識した経営の実現
- ✓ IRの充実・開示の質向上

企業価値向上に向けた経営の意識改革

②上場維持基準の厳格化

- ✓ 流通株式時価総額の基準引上げ
- ✓ 流通株式比率の基準引上げ
- ✓ ガバナンス体制の強化

上場企業に求められる体質・ガバナンス強化

③TOPIXの見直し

- ✓ 浮動株比率のウエイト拡大
- ✓ 投資家との建設的な対話を重視
- ✓ 流動性の向上・市場の魅力度向上

投資家視点を重視した市場の質向上

IRによる「企業価値向上」が経営の最重要テーマへ
～株主との対話・データ活用ニーズが拡大、株主コミュニケーションの高度化が不可欠に～

- ✓ 資本コストを意識した経営
- ✓ 投資家とのエンゲージメント強化
- ✓ 質の高い情報開示・データ活用

当社のソリューションが課題解決を支援

機関投資家のターゲティング需要

IR-navi

機関投資家データベースと
IR活動の効率化・高度化を支援

個人株主拡大・エンゲージメント需要

Premium プレミアム優待倶楽部

個人株主との接点拡大と
エンゲージメント強化を支援

投資家との対話の高度化需要

IR-port Co-creating Sustainable Value

統合報告書の作成・開示を効率化し、
対話の質の向上に貢献

データ活用・DX化需要

株主管理DX
AI・データ分析

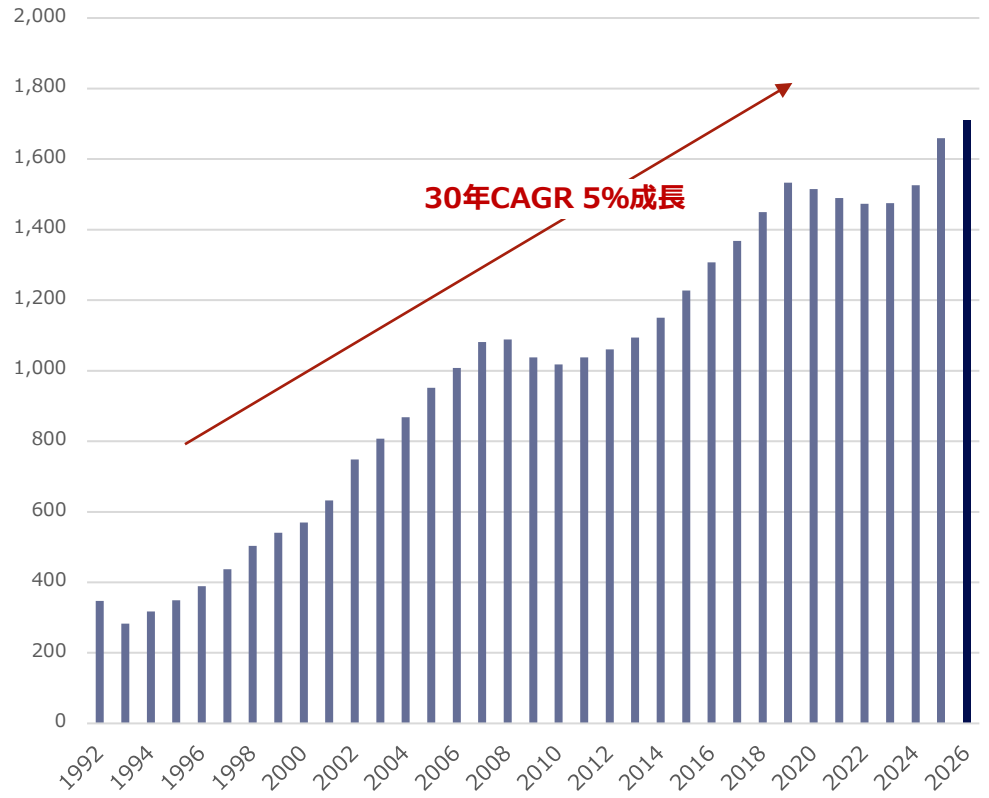
株主管理の効率化とデータ分析で
企業価値向上を支援

©WILLs Inc.

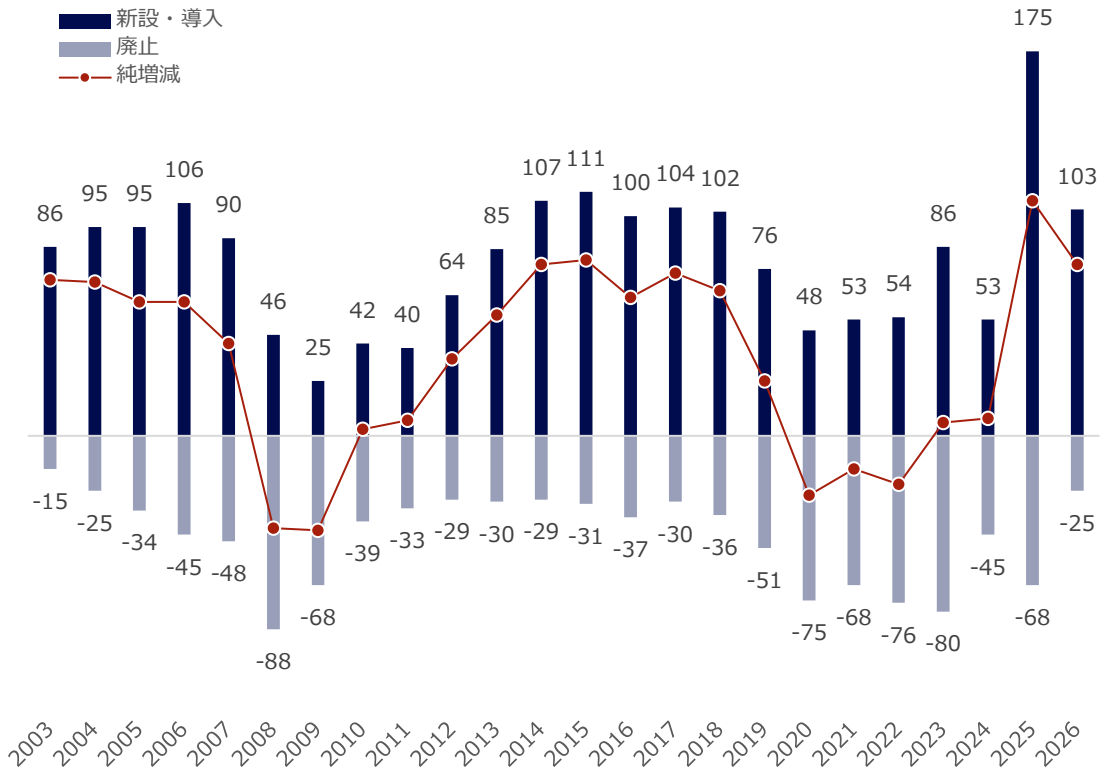
株主優待導入企業数は、5%超のペースで拡大を続ける

- ✓ **株主優待市場は、景気・制度環境による一時的な縮小を乗り越えながら、30年CAGR約5%で拡大。**
- ✓ **直近でも5%超の成長ペースを維持し、過去最多を更新。足元では新規導入が廃止を大幅に上回り、過去最多の1,715社まで成長、今後も未導入企業への普及と既存の優待制度からのデジタル化による市場拡大が期待される。**

■株主優待導入企業数の推移



■株主優待導入企業数の純増減



(注) 株主優待導入企業数は、2026年9月末日。

©WILLs Inc.

留意事項・免責事項

- 当社は、2026年1月17日をもって当社連結子会社である株式会社ネットマイルを吸収合併（簡易・略式）したことに伴い、2026年12月期第1四半期より、非連結決算へ移行しております。本資料には、吸収合併後も従前の事業を継続していること、前年同期比較への実質的影響が軽微であること、及びグループ全体の比較を表すことを目的に、連結と単体を比較した前年同四半期比を参考値として記載しております。なお、主な影響は、親子間取引の連結消去分であり、事業実態、及び収益構造に重要な変更はありません。
- 本資料には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本資料の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本資料に記載されている財務データは、日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。
- 本資料は、いかなる有価証券の取得の申込みの勧誘、売付けの申込み又は買付けの申込みの勧誘(以下「勧誘行為」という。)を構成するものでも、勧誘行為を行うためのものでもなく、いかなる契約、義務の根拠となり得るものでもありません。
- 当社株式へ投資される際は、投資家ご自身の判断と責任で行われますようお願いいたします。
- 当社は、本資料の記載事項に関して、細心の注意を払っておりますが、本資料に起因する損害、記載事項の誤りや第三者によるデータの改竄、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、事由の如何を問わず、当社は一切責任を負うものではありません。
- 法務上、税務上又は会計上の見解及び処理方法は、弁護士、税理士又は公認会計士等各専門家へご確認願います。
- 開示内容は、金融規制当局又は各証券取引所へご確認願います。
- 本資料の記載事項は、その内容の正確性・完全性が保証されるものではなく、今後の法改正や制度変更等により変更となる可能性があります。最終的なご判断は貴社にてなされるようお願い申し上げます。

©WILLs Inc.


WILLs
MAXIMIZE CORPORATE VALUE